

「学生による授業評価」のまとめ 2023年度第3・第4クォーター刊行にあたって
2024年6月

南山大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会
委員長 服部 寛

南山大学では、1997年度より、各教員が授業方法の改善点を見出し、大学全体の教育の質を向上させることを目的として、全学で「学生による授業評価」を実施している。この授業評価の実施形態について、2017年度におけるクォーター制の導入・名古屋キャンパスへの統合・授業評価のウェブ入力方式への変更といった大きな転換を経て、また2020年度に科目選出方法が見直され、現行のあり方の基礎が整えられた。2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンライン授業・ハイブリッド授業の導入が強いられ、これに伴い授業評価も、設問内容の変更が図られた。2022年度には対面授業にほぼ戻ることとなり、2023年度の授業もほとんどの授業が対面で実施されるに至った。

「学生による授業評価」に関する基本的な情報は、「南山大学 教育企画・研究推進課」の以下のホームページに掲載されている（2024年4月にWebページがリニューアルされたことに伴い、これまでのURLから一部変更がある）。

- ・授業評価について
<https://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/jugyohyoka/>
- ・「学生による授業評価」の「概要」
<https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/hyoka.html>
- ・「学生による授業評価」の「まとめ」（自己点検・評価報告書）
<https://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/jugyohyoka/matome/>
（↑各科目のデータと担当者による報告書はここから確認できる。）

1 授業評価の実施方法

① 対象科目

各学期について1教員につき1科目が選択され第3・第4クォーター合わせて合計437科目が授業評価の対象となった。

② 質問項目

質問項目は以下のとおりである。設問1と2は、学生の授業参加を問う項目、設問3から14は教員の授業運営や授業全体に関して問う項目となっている。このほかに、3つの自由記述の質問項目を設けており、理工学部の授業については4つの追加設問項目がある。

〈「学生による授業評価」質問項目〉

- 設問1：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。
- 設問2：受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。
- 設問3：オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか。対面で受講した場合、授業の開始と終了の時間は守られていましたか。
- 設問4：毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。
- 設問5：この授業の到達目標を理解することができましたか。
- 設問6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。
- 設問7：担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。
- 設問8：授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。オンラインで受講した場合やネットワーク環境が不安定だった場合は【3 どちらとも言えない】を選択してください。
- 設問9：教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。
- 設問10：授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされてきましたか。
- 設問11：学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。
- 設問12：質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。
- 設問13：この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。
- 設問14：全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。

③ 実施手順

授業評価の実施はウェブ入力によって行われる。回答は匿名化して処理される。学生は、教員の指示により授業時間内外に各自のスマートフォン等を使ってPORTAにログインして回答する。授業時間にスマートフォン等を携帯していない等、回答ができない学生は、授業終了後に学内または自宅PC等を利用して回答することが可能である。

④ 実施・集計日程

以下の日程で実施集計を行った。別途、FD委員会による自由記述の閲覧および結果の分析・検討を行っている。

	第3クォーター	第4クォーター
授業評価の実施	2023年10月23日～ 2023年11月11日	2024年1月5日～ 2024年1月22日
集計作業	2023年11月13日～ 2023年11月15日	2024年1月23日～ 2024年1月25日
教員への集計結果の通知	2023年11月16日	2024年1月26日
教員からの自己点検・評価報告書提出	2023年11月16日～ 2024年2月15日	2024年1月26日～ 2024年2月15日
『学生による授業評価』のまとめの発行	2024年6月	2024年6月

2 集計結果の概要

① 回答率について

回答率は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合である(表1)。

表1 回答率(2020年度第1クォーター～2023年度第4クォーター) (数値:%)

年度 人数	2020 Q 1	2020 Q 2	2020 Q 3	2020 Q 4	2021 Q 1	2021 Q 2	2021 Q 3	2021 Q 4	2022 Q 1	2022 Q 2	2022 Q 3	2022 Q 4	2023 Q 1	2023 Q 2	2023 Q 3	2023 Q 4
全体		52.42	42.25	41.51	48.05	50.30	44.50	47.90	49.01	46.89	41.97	45.10	58.16	46.24	42.92	40.67
30名以下		68.86	48.77	50.22	62.11	70.02	51.66	58.78	69.35	65.55	57.09	59.02	73.17	59.06	57.06	58.59
31～60名		54.99	39.65	42.54	53.04	56.27	46.25	52.79	57.93	55.00	49.53	51.53	61.39	61.45	50.62	44.55
61～120名		52.44	40.29	38.40	42.26	48.70	41.78	48.63	48.36	46.71	35.40	42.60	58.23	47.50	44.76	40.73
121～240名		49.70	41.43	37.00	46.30	44.67	42.21	43.52	40.98	40.53	42.41	41.74	53.68	44.79	39.37	34.28
241名以上		48.20	46.64	43.32	45.34	48.84	46.39	42.07	47.74	42.55	34.71	40.27	55.36	41.40	38.41	34.44

今回の対象期における「全体」の数値は、第3クォーターが「42.92%」・第4クォーターが「40.67%」であった。前年度の同時期である第3クォーター「41.97%」・第4クォーター「45.10%」と比較すると、いずれも低下しており、第4クォーターの落ち込みが大きい。教室の規模ごとに見ていけば、30名以下の小規模の授業では概ね横ばいで、31～60名では第3クォーターでは若干の向上が見られるが第4クォーターでは「51.53%」から「44.55%」と大きく落ち込んでいる。61～120名の教室では、第3クォーターでは少し向上し第4クォーターでは約2%ほど低下している。121～240名と中規模～大規模の教室では、両方のクォーターでも回答率が悪化しており、241名以上の大規模の教室では、第3クォーターでは向上しているが、第4クォーターでは逆に落ち込んでいる。今期では、第4クォーターにつき、「30名以下」の授業を除いて、回答率が落ち込んでおり、特に、241名以上の数値の「34.44」は、2017年度以降、確認され得る数値のうち、最低となってしまった。第3・第4クォーターは年度を問わず回答率が低下する傾向があり、今年度も例外ではなかった。この低下の原因については今後精査が必要ではあるが、たしかに、第1・第2クォーターですでに1回分の授業評価を行っているという場合が多く、2回目割り当てられる第3・第4クォーターのほうでの実施につき、実施が緩くなるということも考えられ得る。とりわけ中規模・大規模の授業においては、アンケートをとる時間をしっかりと設けるなど、着実な実施に一層のご協力をお願いしたい。

② 報告書提出について

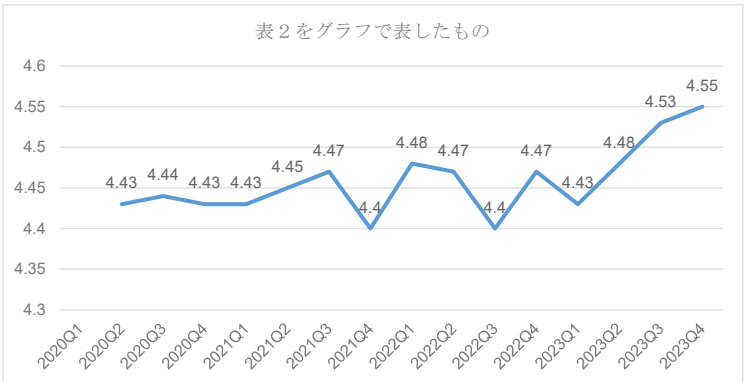
授業評価を行った後に、教員より自己点検・評価報告書を提出していただいている。2023年度第3クォーター・第4クォーターとも、全件の提出があった。2024年度においても、全件の期限内の提出が実現されるよう、ご理解とご協力をお願いしたい。

③ 項目3～14の評定平均値について・項目ごとの評定平均値について

表2は、「項目3～14の評定平均値」を表わしたものである。グラフとともに、以下、掲げておく。

表2 項目3～14の評定平均値(2020年度第1クォーター～2023年度第4クォーター)

年度 学期	20 Q1	20 Q2	20 Q3	20 Q4	21 Q1	21 Q2	21 Q3	21 Q4	22 Q1	22 Q2	22 Q3	22 Q4	23 Q1	23 Q2	23 Q3	23 Q4
全体 実施 せず	4.43	4.44	4.43	4.43	4.45	4.47	4.4	4.48	4.47	4.4	4.47	4.43	4.48	4.53	4.55	



2023年度の第3クォーター・第4クォーターの当該数値は、それぞれ「4.53」「4.55」であり、昨年度の同時期に比べていずれも上昇し、第4クォーターのものは、これまでで最も高い数値となった。

表3は、各設問項目の数値の推移を示している。

表3 項目ごとの評定平均値(2020年度第1クォーター～2023年度第4クォーター)

設問項目	学期	2020 Q 1	2020 Q 2	2020 Q 3	2020 Q 4	2021 Q 1	2021 Q 2	2021 Q 3	2021 Q 4	2022 Q 1	2022 Q 2	2022 Q 3	2022 Q 4	2023 Q 1	2023 Q 2	2023 Q 3	2023 Q 4
1 授業への興味	実 施 せ ず	4.16	4.12	4.20	4.10	4.12	4.13	4.06	4.07	4.12	4.00	4.11	4.01	4.12	4.09	4.16	
2 授業への取り組み・自主的な学習の実行		4.22	4.18	4.22	4.18	4.17	4.15	4.08	4.17	4.14	4.08	4.14	4.13	4.13	4.17	4.21	
3 授業時間の厳守		4.73	4.72	4.67	4.74	4.70	4.75	4.64	4.72	4.68	4.62	4.65	4.74	4.69	4.75	4.74	
4 構成や速度が適切		4.48	4.49	4.47	4.48	4.49	4.51	4.46	4.52	4.53	4.44	4.54	4.52	4.54	4.58	4.60	
5 到達目標の理解		4.19	4.17	4.21	4.16	4.18	4.16	4.16	4.24	4.23	4.14	4.25	4.18	4.26	4.28	4.35	
6 到達目標の達成		4.10	4.11	4.14	4.07	4.11	4.12	4.08	4.16	4.15	4.07	4.15	4.09	4.18	4.21	4.26	
7 教員の姿勢		4.60	4.60	4.57	4.58	4.60	4.63	4.53	4.63	4.62	4.57	4.61	4.59	4.64	4.67	4.68	
8 教員の声		4.48	4.56	4.53	4.60	4.59	4.63	4.60	4.64	4.61	4.56	4.60	4.63	4.66	4.73	4.73	
9 理解度への配慮・板書、配付資料		4.44	4.47	4.45	4.46	4.47	4.50	4.46	4.53	4.51	4.45	4.52	4.49	4.54	4.60	4.61	
10 妨げ行為への対処		4.64	4.67	4.71	4.72	4.70	4.74	4.66	4.69	4.70	4.62	4.66	4.53	4.55	4.62	4.64	
11 意欲を引き出す工夫・自主的な学習の指導		4.28	4.32	4.30	4.26	4.31	4.35	4.25	4.34	4.34	4.26	4.35	4.28	4.37	4.41	4.44	
12 質問や相談の機会		4.45	4.49	4.44	4.42	4.46	4.48	4.36	4.46	4.49	4.41	4.45	4.41	4.49	4.55	4.55	
13 知識・理解の深まり		4.39	4.39	4.37	4.38	4.40	4.39	4.36	4.44	4.43	4.36	4.44	4.4	4.47	4.49	4.52	
14 全体としての満足度		4.33	4.34	4.33	4.30	4.35	4.36	4.30	4.39	4.38	4.29	4.39	4.34	4.41	4.45	4.50	

先に「表2」で見た「項目3～14の評定平均値」においてもすでに含意されているように、各項目の数値については、これまでと比べて、総じて上昇傾向にあるといつてよい。以下、各項目について、数値と読み取れるところを述べる（執筆者の主観を越え出るものではないことをお断りしておく）。「1」と「2」は便宜上後で触れる。

授業の実施の形式に関する「3」「4」については、「3」は引き続き高い水準にあり、「4」は今期において0.1ポイント以上上昇している。「4」が2023年度において前年度以前に比べて高評価であるのは、新型コロナウイルス感染症が5類に以降して対面授業に戻ったことに伴うであろう、授業全般のひきしまった運営への意欲が見られるか、また、100分・14回授業制を取り入れてから数年経過し、各授業の構成の改善や工夫が結実してきた、ということも考えられるであろう。

到達目標に関する「5」「6」も、今期は0.1ポイント以上の上向きの数値が見られる。ただ、この「5」「6」は、他の項目に比べて、平均的に少し低めであるが、ここ数年では今期の数字がいちばん高いことについても注目してよい。このあたりは、教学マネジメントの体制の整備との関連で進められている、シラバス項目の検証（ディプロマ・ポリシーの整備を後景として進められる）との関連を踏まえながら、場合によっては項目の見直しの検討を要するかもしれない。さらには、今後取り入れられる予定の、学生の学習の「到達度調査」は、ディプロマ・ポリシー単位のものではあるが、本「授業調査」における各授業単位の到達度とも相俟って、授業と学部ディプロマ・ポリシーとさらにはカリキュラム単位での到達度を効果的に把握できるような仕組みが構築されることが期待される。

教員のいわば人的な授業への態度ともいえる「7」「8」も、数値の向上を確認できる。とりわけ「8」の声という点は右肩上がりである。声の聞き取りやすさは、授業の理解のしやすさにもつながる点であり、引き続き聞き取りやすい声での説明をお願いしたい。

「9」は板書・配布資料に注目される形での理解度に関する数値であり、これも上向きである。

「10」の妨げ行為への対処は、依然として高い数値にあるが、2023年度にわたって低下している。対面授業へと全般的に戻ったことにともなうからであろうか、引き続ききちんとした対処をお願いする。

「11」の、意欲への工夫や自主学習の指導、さらにはフィードバックにつながる「12」も上向きである。これらの点も、シラバスの項目（の検証作業）において、授業時間外の学習時間に関する指示の記載が今後ははかれることや、今後取り入れられる学修行動調査における半年単位での学修行動とも結びつけられ、学生の意欲的な取り組みが授業単位、ひいては個々の授業を越えて行なわれるなどのことも期待したい。レポートやゼミなどでの報告についてのフィードバックは、高評価（カテゴリー④）の授業への自由記述でも見られるところである。大規模の授業となると、きめ細やかなフィードバックを行うことは相応の負担となるが、学生のほうからは授業の理解促進の手厚さにつながり、評価の向上につながるものといえる。ぜひ工夫の一つとして考えて頂ければと思う。

「13」や「14」といった総じての結果についても、ここ数年上昇傾向が見られるのは喜ばしい。これまでの項目で触れた各点の改善傾向に応じたものと言えるであろう。

他方、「1」と「2」に戻ると、近年は概ね数値が高まってきてはいるが、他の項目と比べると少し低めである。上述した、到達度調査や学修行動調査において示されるであろう、ディプロマ・ポリシーや学期ごとのデータを把握しながら、授業単位でもそれぞれの魅力を効果的に示し、学生の意欲的な授業参加がいつそう進むことを願ってやまない。

以上を踏まえて、改めて、「項目3～14の平均値」の今期における上昇をみると、授業時間の厳守（3）、教員の姿勢（7）などで高い水準を維持されており、教員の声（8）や理解度への配慮（9）においてここ数年の中でとても高い数字が出ていることを見るに、よい授業を提供する上での形式的な工夫や配慮、さらには理解度の増進のための工夫についても高い意識を持って授業を行っているということが指摘できそうである。

3 教員ごとの結果の見方

「7 自己点検・評価報告書」に記載されている頁番号（丸括弧がないもの）の箇所では、教員ごとの結果を示している。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示する。それぞれ、次の内容となっている。

① 科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など

② **2種類のレーダーチャート** 右下の図は回答者全員の集計結果であり、左上の図は学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目2の評定値が3.0以上の学生だけに絞って集計した結果である。

③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を基に、結果の自己点検評価や、次学期・クォーターに向けた改善策などを書いた報告書である。

4 授業評価結果の活用

この授業評価は、授業担当者が自らの授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を学生から収集するために実施されている。各授業担当者は、評価項目の数値や自由記述欄に書かれた内容を参考に、自分の授業について点検・評価を行って改善策を検討することとなっている。授業評価の実施、点検および評価、改善策の検討と実施を1つのサイクルとして、授業の質等を向上させることにつながれば幸いである。

この2023年度の後半である第3・第4クォーターも、引き続いて、対面授業・教室収容率100%と、コロナ禍以前とほぼ同様の形態で授業が行なわれた。上述したように、各項目についてよい数値が見られることは、コロナ禍の苦しい経験を経ながら各授業担当者が授業の工夫をあれこれ進めてきたことが実を結んできているという結果である。それに加えて、ここ数年の授業周りに関する制度の変化、たとえば100分14回授業の仕組みも、導入されて3年目となり、この枠組みでの授業の構成などについても各授業担当者の改善の取り組みがあるはずであり、おそらくは、この時期のタイミングで、コロナ禍以前の授業の

あり方から、いわばバージョンアップしたということが、数値における高評価の形での表れていると言ってよい。事実、多くの教員が、資料DLサーバーや WebClass を通じての資料配付、WebClass を使用しての課題提示など、ICT の活用をはじめて経験を重ねてきた。あるいは、オンラインプロパーの授業でなく対面での授業を提供することについて、コロナ禍の経験した学生目線から、わざわざ対面ではなくオンラインでよいのではないか、という声上がることに對して、やはり対面授業で提供することの意義を、各教員が意識して、改善また改良に取り組んだということに對して、学生からの評価を得た、ということも、また事実として認めてよいのではないだろうか。

この「授業評価」自体について、回答率が芳しくないことをはじめとした、授業評価のあり方自体をめぐる批判や意見も、諸方面から提出されて久しく、授業の実態をより反映した実施方法をめざして、改善をはからなければならないことも否定できない（2024 年度には、授業評価についても見直しを図ることを当委員会において予定している）。提示されている数値やデータの分析についても精緻化が必要である。教学マネジメント体制の整備が進もうとしているなか、上述した、到達度調査や学修行動調査など授業評価と並ぶ各種調査との連携のほか、ポートフォリオにより示されるであろう個々の学生の学力の実態を示すデータとも視線を往復させながら、よりよい授業運営の道への、新たな一步に踏み出そうという段階にある。学生の理解や学力の度合いを意識しながらも、引き続き強い熱意と真剣さをもって、授業の実施に臨まれることをお願いしたい。

以上